

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和3年度 第2回佐渡市行政改革推進委員会
開催日時	令和3年7月26日(木) 13:30~15:30
場所	金井コミュニティセンター 1階 小会議室
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 諮問書の手交</p> <p>4 議 事</p> <p>1) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な行政運営プランの進捗状況について</li> <li>・令和3年度佐渡市事業レビューの対象事業について</li> </ul> <p>2) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回委員会での未回答事項について</li> </ul> <p>3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回、委員会開催日について</li> </ul> <p>5 閉 会</p>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>≪行政改革推進委員≫ (6名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長 西川 祐一</li> <li>・アドバイザー 南島 和久</li> <li>・委員 川島 敏秀、小林 真志、本間 美華、安藤 信義</li> </ul> <p>・佐渡市長 渡辺 竜五</p> <p>≪事務局≫ (3名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画課長 猪股 雄司</li> <li>・企画課行革推進係長 若林 昭宏</li> <li>・企画課行革推進係主事 菊池 勇司</li> </ul>
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
渡辺市長	<p>1 開会 （事務局 猪股企画課長より開会の挨拶）</p> <p>2 市長挨拶 【渡辺市長より挨拶】</p> <p>3 諮問書の手交 （渡辺市長、猪股企画課長は公務により退席）</p> <p>4 議 事</p>
若林行革推進係長	<p>1) 協議事項 持続可能な行政運営プラン（以下、「本プラン」）の進捗状況について 【資料No.1 により説明】</p>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは今の説明に対し、分割して議論を頂くこととする。まずは資料No.1 の3ページ、「1 本市を取り巻く状況」「2 策定の必要性」についてご意見をいただきたい。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を見ると、「1 本市を取り巻く状況」については「本市の状況」のように思える。タイトルと内容の整合についてご検討いただきたい。</li> <li>・「人口減少・少子高齢化は、全国的にみても先進的に進行しており」という記載について、ポジティブな表現をされているが、正しく理解ができない可能性があるため、「先行しており」など自然な表現に改められた方が良いかと思う。</li> <li>・「人口を維持することは困難な状況ですが～これまで以上に人口減少を抑制する施策を講じることが求められています」との記載については、「困難な状況の中でもチャレンジを」とおっしゃりたいのだと思うが、矛盾しているようにも見えるので分かり易い表現に改めて頂きたい。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を参考とし、書きぶりについては検討させていただく。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2 策定の必要性」に「社会全体の大きな変化に対応しながら」と記載されているが、「society5.0」、「AI・RPA」、「SDG s」などの社会の潮流に対応しながら進めていくということを具体的に記載したほうがよいのではないかと感じた。ご一考願いたい。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見について検討させていただく。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、「5 基本方針と重点事項」についてご意見等あるか。</li> </ul>
安藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針と重点事項で掲げられている項目に対して、タイトルにある「持続可能な行政運営プラン」の「持続可能」と言う表現があるが、重点事項を見ると通常の事務改革で今まで通りの内容に感じており、持続していくために必要な内容という意味と合っていないと感じる。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「持続可能な」と言う表現についてはまだ一般的な表現でないと感じる方も多</li> </ul>

	<p>く、私が参加する他の委員会でも疑問符をつける委員の方がいらっしやる。この表現については世界的な潮流の中で使用されている言葉であり、積極的に使っていこうという流れの中で採用されたと理解している。しかしながら、安藤委員はそう感じられたということである。</p>
安藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「持続可能な」という言葉が今の時代の流れで積極的に使用される言葉なら仕方ないが、そのために取り組むべき重点事項の中身を見ると以前までとあまり変わりがない。内容について十分整理できているわけではなく、目新しいものをやればよいというわけでもないが、違和感がある。</li> </ul>
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から意見しているが、「(2) 人材育成の推進」の中に、「情報リテラシー教育の推進」という重点項目を一つ追加してもらいたい。ひとつ気になっていることは、この中で我々が教育委員会の施策に言及できる立場にあるのかということである。全国的な調査でも佐渡市は情報教育が遅れているという結果が出ており、学校での情報教育は急務であり、可能であればそこに言及したい。</li> <li>・また、生涯学習でも同じように情報リテラシー教育を進めた方がよいという思いがあり、是非項目を追加していただきたい。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の川島委員のご意見を踏まえ、重点項目(1)-②「行政手続きのデジタル化・オンライン化」の中で情報格差の解消に向け取り組むという一文を記載させていただいた。</li> </ul>
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私が言っているのは行政事務だけの話ではなく、佐渡市民全体に向けた情報リテラシー教育の話である。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川島委員は情報リテラシーの問題は行政事務においてのみの問題ではなく、佐渡市全体の問題としてあるということをおっしゃりたいのだと思う。私も同意見であるが、それを本プランで表現するかどうかについては、事務局でご判断頂きたい。</li> </ul>
安藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシーの問題について取り上げるのであれば、市として推進していくのかも含め、もう一度練りなおしたほうがよいのではないか。学校や生涯学習でのパソコン教室などは今までもやってきたし、そんな時代でもないはずである。より先のことを、教育委員会の部分だけではなく佐渡市全体の方針としてどう進めていくか決めたほうがよいのではないか。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案の「(2) 人材育成の推進」については職員の人材育成についてであるということである。情報リテラシーというと、人材育成の推進というよりは政策的な意味合いになってくると感じる。今回の川島委員の意見については事務局預かりとし、関係部局で調整していただきたい。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・承知した。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて資料No.1 6ページ、「(1) 効率的・効果的な行政運営」の議論に移る。意見等あるか。本間委員はいかがか。</li> </ul>
本間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの話に戻って申し訳ないが、私も「持続可能な」という文言はSDGsの印象が強く、重点項目「(1)-①AI・ICT技術等を活用した行政事務の効率化」、(1)-②「行政手続きのデジタル化・オンライン化の推進」については市役所がこのような変革をすることで市民もそれを使っていきますよということだと</li> </ul>

	<p>理解している。進めていっていただければありがたいし、市民のためにレベルアップも大切であると感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民になじみのない単語が多数出てくるので、その点については誰もが理解できるような表現・工夫をしていただきたい。</li> </ul>
<p>小林委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も取り組み項目については今までと変わらない印象は受けている。インパクトを持つことがよいのかどうかという部分はあるが、市民が見て佐渡市がこういうことをやろうとしていると分かるものがあると良いと感じる。</li> </ul>
<p>若林行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本間委員の意見については、完成の際には注釈をつけてわかりやすいものとする。小林委員の意見については、新規性があり、かつインパクトのある取り組みというのは中々難しいところである。</li> </ul>
<p>西川会長 若林行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナンバーカードについての取り組みというのはどこかに入るのか。</li> <li>・重点項目「(1)-①AI・ICT技術等を活用した行政事務の効率化」については内部事務のデジタル化を、(1)-②「行政手続きのデジタル化・オンライン化の推進」市民の方々が手続きをする際の手続きのデジタル化を謳ったものである。</li> </ul>
<p>西川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)-②「行政手続きのデジタル化・オンライン化の推進」にあたり、マイナンバーカードは重要な位置を占める。実際に他自治体ではマイナンバーカードの活用の推進を直接的に謳った行革計画もある。マイナンバーカードの推進について、事務局ではどのように考えているのか。また、セキュリティについてどのように考えているのか。</li> </ul>
<p>若林行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国のデジタル化についてはデジタル庁が発足し、これから本格化していくところである。これから指針が示されていく中で、当然セキュリティについても言及があると考えており、それを踏まえて進めていく。</li> </ul>
<p>菊池行革推進係主事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本プランについては全体的な行革の方針であるため、マイナンバーの部分に記載するかどうかは別として、マイナンバーの活用については、行政手続きのデジタル化・オンライン化の推進において、手段の一つとして考えなければならぬものだと考えている。</li> </ul>
<p>西川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政改革の計画の中で、デジタル化・オンライン化の推進をどのように落とし込むのかという部分が気になっている。</li> </ul>
<p>小林委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報格差の解消の部分で、若者に向けたデジタル化、オンライン化の中でも、高齢者が不自由しない、不安を感じないような記載をいれたほうがよいのではないかと感じた。</li> </ul>
<p>西川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員のご発言のとおりであると思う。しかしながら、行革の中でどこまで書いたほうがよいのかという部分がある。安藤委員はどうお考えか。</li> </ul>
<p>安藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本プランの中では、どうしても具体的な内容はかけないと思う。その中で、この部分で何をやるのかと聞かれたときに、例えば総合計画のこの部分を見てほしいなどの説明ができればよいのだと思う。あまり細かいことを書いてしまうと、收拾がつかなくなる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連して、職員の業務効率のためのデジタル化というのは、大きな指針の中で謳わなければならない事項であるとは思いますが、それは今までにない大きな変革があったときの話だと思う。ここには具体的な取り組み項目としてWEB会議</li> </ul>

<p>西川会長 川島委員</p>	<p>が挙げられているが、これは現状でもできることである。むしろその先、例えば市民とWEB会議ができるなどの提案が必要と感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これは考え方の話であり、細かい記載内容に対してどうこう言うつもりはない。ただ、根本にそういう考え方があるかどうかである。その部分をはっきりさせておかないと行き着く先が違うのではないかと感じる。</li> <li>・続いて7ページ、「(2)人材育成の推進」についてご意見あるか。</li> <li>・市職員を対象とした「人材育成」であると考え、まず職務分析がされていないのではないのかと感じる。職務分析により、必要な技能、資格がわかり、効果的な研修等がわかるようになる。</li> <li>・また、以前より管理職の任命については、何の研修もなく管理職になっているのではないかという疑問を持っていた。民間企業では昇進前研修を受けてからでないと管理職になれないという制度を設けているところもあるが、そのような制度が市役所にも必要と感じる。また、管理職になってからの研修も不十分と感じる。</li> </ul>
<p>西川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本プランに記載するには細かすぎるとも感じるが、かねてより川島委員からはこのような提言をいただいている。当委員会からも総務課の人材育成基本方針を更新するよう再三意見をしているが、現在どのような状況か。</li> </ul>
<p>若林行革推進係長 西川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画、本プランと併せ、今年度中に更新予定と聞いている。</li> <li>・まだ内容が固まらないものをどのように記載するかは悩ましいところである。むしろ「人材育成基本方針に従って行う」といった記載でもよいのではないかと感じる。</li> </ul>
<p>南島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長のご意見のとおりであると思う。ここに記載をしてしまうと、人材育成基本方針が更新されないという事態にはならないのか。働き方改革や外部人材、会計年度任用職員などの部分についても人材育成基本方針に当然入ってくる部分ではないか。本プランと人材育成基本方針で同じ要素が入っていて、方向性が違うということになると困る。</li> </ul>
<p>若林行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の記載については、まず総務課で人材育成基本方針を立て、それに基づいてこちらにも行革の方針として記載するというイメージである。</li> </ul>
<p>南島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成基本方針の更新については、合併当初から更新がされていないことを問題視し、以前より当委員会から意見をしていた。人材育成基本方針をベースとするということであったが、いつになるかわからない。そうすると先ほど申し上げたような二つの計画で記載内容が違うといったことが起こりうるかもしれない。本来であれば急いで更新をしてもらうのがよいはずである。</li> </ul>
<p>若林行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成基本方針に加え、定員適正化計画についても総合計画、本プランと併せて本年度中に策定する予定である。</li> </ul>
<p>南島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の記載内容は現在の人材育成基本方針と齟齬がある可能性がある。それをあえて記載しておくのか、「このような方針で記載してください」と書くのか、あるいは「今後改定に向けてがんばります」とまとめるのか、その辺についても併せて庁内でご相談いただきたい。</li> </ul>
<p>安藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成の対象は消防・病院等も含めた全職員か。</li> </ul>

若林行革推進係長 安藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その想定である。</li> <li>・全ての職種を一緒くたにすることには少し違和感がある。例えば職種によっては消防士に未来志向型と言ってもどう求めているのかという気がする。</li> <li>・市役所業務の外部委託を進めているという現状があり、また、多数の会計年度任用職員もいる。人材育成の枠からはみ出る人材が多数存在し、対象者が不明確である。外部委託では市役所の人材育成について、受託会社に受け入れが可能か悩ましいと思う。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生煮えの部分もあろうかと思うので、これについてはまた今回の意見を参考のうえ再提案していただきたいが、いかがか。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南島委員のおっしゃるとおり、人材育成基本方針があるというのであれば、本プランにここまで記載する必要はないように思う。「人材育成基本方針に従って行う」で十分なわけである。現在のボリュームにするにしても、総務課の責任で総務課が書いているならばいいが、「行革が書いたので知らない」と言われるのが一番恐れる事態なわけである。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すっきりとした形で示すため、両課で協議していただきたい。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・承知した。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは続いて「(3) 効率的で機能的な職務体制の構築」の議論に移る。</li> </ul>
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業でも常に取り組んでいるが、非常に難しい部分である。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この部分については、行政のデジタル化と関連してくる部分か。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとおりである。</li> </ul>
安藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の書きぶりを見たときに、具体的に何をするのか見えにくいような気はする。</li> <li>・「② 定例的業務の集約による効率化」の部分について、行政改革なのか事務改革なのか。必要性は理解するが、内容は事務の改革的であり、「持続可能な行政運営プラン」に重点項目として掲げる必要はないのではないかと感じている。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計年度任用職員の話がなぜ組織の話の中で出てくるのか疑問である。「(2) 人材育成の推進」のほうがよいのではないか。いずれにせよこの辺はよく整理していただく必要があると思う。</li> <li>・組織の話について、具体的に書くことができるのかどうか疑問である。しかしながら行革にとって組織は重要なので記載をしたいという思いをお持ちなのは理解できる。記載すべき内容については改めて部内でご検討いただきたい。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案を作成する中で、「(2)人材育成の推進」「(3)効率的で機能的な職務体制の構築」は1本にし、「仕事」「人」「財政」の3本柱にしたほうがわかりやすいのではないかという思いもある。「①機能的な運営体制の構築」は「②定例的業務の集約による効率化」の中にまとめてしまってよいのではないかと考えている。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係課とよく相談していただきたい。それでは続いて、「(4)健全な財政運営」についてご意見等伺うが、前提として財政計画の策定状況について事務局より説明願いたい。</li> </ul>

若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政計画は本プランとスケジュールを合わせ、今年度の策定を予定している。「(4) -②財政計画に基づいた財政運営」の記載のとおり、財政計画の前提としては行政改革の取り組み、およびその効果予測を踏まえて策定するという考え方である。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政と行革の関係性について、財政を主として、その手段として行革を使っていくという考え方と、行革は不断の取り組みであるという前提の下、行革を主として財政で下支えするという考え方があり。現在の記載は後者、行革を主とした考え方である。そうすると行革の言うことを財政が聞いてもらわなければならないという考えになる。</li> <li>・行革はコストカットだけするものなのかという視点もある。そうすると例えば協働の考え方はこちらに入れてもいいのかもしれない。</li> <li>・計画全体を通してであるが、市長のお考えを代弁した内容であると思われる。そうすると行政内部では行革が具体的な取組項目で勝負することになるのではないか。市長のお考えは冒頭に整理できないか。市長の言葉を代弁しながら、財政・総務の範囲まで行革という一部局が背負うような形は無理があるのではないか。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認であるが、この財政の部分について、財政課は承知しているのか。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政課と協議の上記載している。(4) -2の文言については、財政課から提出されたものである。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それであれば理解ができる。確認だが、基本方針(2)については総務課、(4)-②については財政課がそれぞれ各計画に基づいて責任を負いながら進めるという理解でよいのか。そして、行革が担当する部分において、行革が責任を負うような書きぶりであればよいという理解でよいのか。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お見込みのとおりである。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それであれば、「DX関係」「公民協働」「業務の集約化」の3つの柱くらいにして、そこは行革で責任を持つこととしてはいかがか。その上で総務、財政、行革の三位一体で改革を前に進めていくという建付けであればそれはそれでわかりやすくなり、形としてはありうるのではないか。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは議論自体はこのあたりにしておいて、今回の意見を踏まえ、関係課も含めもう少し詰めていただき、各項目の責任の所在を明らかにした上で再度議論の場に上げていただきたい。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名称の話だが、「プラン」であるとPDCAをまわす印象を与える。「指針」程度にしておき、「評価はしない」といった建付けにしておいたほうがよいのではないか。</li> </ul>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗管理はするのか。</li> </ul>
若林行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どう進捗管理をするかは非常に重要であると考えている。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それであれば例えばRPA等は具体的な項目として取り上げたほうがよいのではないか。一番進捗管理が容易そうな項目である。評価をするのであれば何を評価するのかを念頭において計画を策定したほうがよい。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この名称については市長の指示か。</li> </ul>

<p>若林行革推進係長 南島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示ではないが、了解は得ている。</li> <li>・それであれば中身を見ながら、こういう意見があったということで市長も含め内部で議論をしていただきたい。</li> </ul>
<p>若林行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・承知した。</li> </ul>
<p>若林行革推進係長 西川会長 本間委員</p>	<p>令和3年度佐渡市事業レビューの対象事業について 【資料 No2】により説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、今の事務局の説明に対して何か質問等あるか。</li> <li>・事前に勉強をしたいので資料は早めにいただきたい。</li> </ul>
<p>若林行革推進係長</p>	<p>2) 報告事項 前回委員会での未回答事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川島委員より、令和2年度第4回の委員会にて報告した第3次集中改革プラン最終実績について、「取組項目 2-3 補助金等の見直し」の補助金の実績額が大きく膨らんでいる理由についてのご質問があった。前回の委員会までに未回答となっていたため、この場でご報告する。</li> <li>・令和元年度の補助金実績が大きく膨らんだ理由としては、消費税増税に伴う経済対策としてプレミアム商品券事業が実施されたためと考えている。</li> </ul> <p>3) その他 次回、委員会開催日について 【次回委員会（事業レビュー）は8月26日（木曜日）午前中から実施することで予定】</p> <p>5 閉 会 【小林委員より閉会の挨拶】</p> <p>(終了)</p>